

つなぐ



浦安の市民活動・まちづくり活動の40年

みんなでふりがえって これからを考えよう

浦安町から浦安市へ。今から40年ほど前の昭和56年のこと。その頃は、漁師町の風情を色濃く残すまちで人口は約6.6万人。その後、中町・新町地区の開発が進み、マンション群が立ち並ぶ近代的なまち、約17万人の人々が暮らすまちへと大きく変わりました。

この間、地縁団体を中心としたまちづくり活動は、さらに市民活動団体へと広がり、ゴミ拾いなどの清掃活動や美化活動といった市民活動が活発になりました。また、さまざまな地域課題に対し何とか課題解決を図ろうと環境や福祉、子育て支援などさまざまな分野で多くの人たちが活動を始めました。

ところで、まちの発展とともに活動し続けている団体がどのくらいあるかご存知ですか。現在、市民活動センター登録団体の内、設立から20年以上活動している団体は84団体で、福祉や環境、まちづくり、文化・芸術・スポーツといった分野の活動。長きにわたって活動している団体の中には協会、協議会、連盟といった形態の団体が目立ちますが、徐々に市民活動団体もまちづくりの担い手となっています。地域のお困りごとや問題に真っ直ぐ向き合い、ブレることなくまちの様子や時代の変化にも柔軟に対応しながら、地道に活動されています。

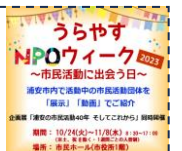
その団体はうらやすNPOウィーク企画展にてご紹介しています。素晴らしい活動を知り“この先のまちづくり”を一緒に考えてみませんか。

うらやすNPOウィーク2023～市民活動に出会う日
企画展「浦安の市民活動40年そしてこれから」

■期間：10/24（火）～11/8（水）

■場所：市役所1F 市民ホール

前後半15団体ずつの展示と25団体の動画もご覧いただけます



- 現在
市民活動センター登録団体数
230団体
- 令和5年
まちづくりフェスタ「with」
- 令和元年
新型コロナ感染症の流行
- 平成28年
市民活動センター
市役所に移転
- 平成28年
「つなぐプロジェクト」開始
- 平成24年「若者のための
夏休みボランティア」開始
- 平成23年
東日本大震災
- 平成22年 市民活動センター
（公設民営）
- 平成17年
市民活動センター登録団体数
135団体
- 平成14年
市民活動センター開設
- 平成10年
NPO法施行
- 平成7年
阪神・淡路
大震災
- 昭和63年
新浦安駅開業
- 昭和56年 浦安市施行
- 昭和44年
浦安駅開業
- 昭和33年
黒い水事件

市民活動センターのあゆみ

「若者のための夏休みボランティア2023」

今年もたくさんのサポート
ありがとうございました！



若者のための夏休みボランティア、通称「夏ボラ」が今年の夏も開催されました。4年ぶりの制限のない「夏ボラ」には271名の中学生～20代の皆さんが参加し、猛暑の中、様々な分野でボランティアを体験しました。

この夏ボラを支えてくださっているのは何と言っても受入れ団の皆さんです。今年は27の受入れ団体から34プログラムの提供がありました。

そして、もう一つ夏ボラに欠かせないのが、団体とともに夏ボラに関わり、活動をサポートして下さった皆さんの存在です。どんな方が、どんな思いで一緒に活動されているのか、夏ボラの3つのプログラムから3人の方にお話をうかがいました。

夏ボラプログラム「マハゼのすみか（釣り）境川調査」 受入団体：浦安水辺の会

特定非営利活動法人 海辺つくり研究会
理事長 古川 恵太 さん

マハゼのすみか調査は「江戸前ハゼ復活プロジェクト」の一環として2012年に始められました。東京湾の失われた環境を取り戻すための活動を一般の人にも広めるには、水質などを問題にするより、身近な魚の生態の変化を取り上げた方がわかりやすく、興味を持ってもらえるだろうと考えられたからです。中でもマハゼの大きさを測り、そのデータからすみかを探ることは生息数を増やすのにとても効果的だそうです。

市内で水辺の環境保全活動をしている「浦安水辺の会」もこのプロジェクトの趣旨に賛同し、2015年から夏休みボランティアのプログラムとして参加されています。「夏ボラでの調査はとてもいいです。なぜなら若い人たちが、自主的に参加しているからです。日本ではまだボランティアというと奉仕活動という面が強いですが、本来は自主的に役立つことに参加することです。自ら一歩踏み出した学生に参加して良かったと思ってもらえるように、調査としてハゼ釣りをすることが、なぜマハゼ復活に役立つのか、活動の意義を伝えるのが自分の役目だと思っています」と古川さん。

学生たちには今のうちに意識して、色々な場所で自然に触れて欲しいと伝えたいそうです。その理由を次のように語っていただきました。「現在も地球の環境は厳しいけれども、



「ハゼはなぜ川底にいる？」
ボランティアたちに
熱く語りかける古川さん

今はまだハゼ釣りができたり、身近にも自然を感じたりできる環境があります。しかし、近いうちにそれもなくなる可能性があります。そして、環境に与えたダメージを取り除かなければ、生活が立ち行かなくなるでしょう。その時、自然に触れた経験が役立ちます。失われた自然環境を回復させるための活動を行う時、かつて体験した釣りができるような川や海辺を取り戻すことを目標にできます。実体験というのは大きい。映像で見た風景を取り戻そうと思うのとは重みが全然違います。今のうちに貪欲にいろいろ体験して、将来に備えてください」



夏ボラには様々な分野の市民活動があり、それぞれが課題解決に向けて活動しています。そこに参加することで社会の課題に気づき、自分なりにどうすればいいかを考えるきっかけにもらえるといいなと思います。

市民活動団体 しろくまキッズ
代表 広田 由紀江さん

ソーラークッキングの講師として参加いただいた“しろくませんせい”こと広田さんは温暖化防止に関連する講座や学校への出前授業の開催を中心に幅広い活動をされています。このプログラムにボランティアとして参加したのは中学生3名と高校生1名の合計4名。広田さんにとって夏ボラの中高生たちは、「イベントにいてくれるだけでその存在感が大きかった」そうです。開催側に中高生が加わることで、イベントに関わる世代がより多様化し、その若さのおかげでこういった活動が未来にもつながっていくものを感じられたそうです。また、「中高生との雑談を通して若者が日常で感じているリアルな声を聞いたのも新鮮な機会だった」とのこと。



「油を引いてワインナ投入！
いい匂いに誘われて
みんながのぞき込みます」



夏ボラ参加者の中に、広田さんが浦安の小学校での出前授業に関わったことのある子がいたそうです。「地域で活動しているからこそそのつながりを体感でき、夏ボラが再会の場となったのがいちばんうれしい！」と笑顔で語ってくださいました。また、新たな出会いもあり、今後の活動の広がりも期待されていました。若者たちへのメッセージを伺うと、「夏ボラに参加することによる学びもあるけれども、“来年も夏ボラでまた会おうね！”というゆるい関係を築けたらうれしい」とお話しくださいました。また、「参加するみんなにとって居心地のいい体験をできる機会なのが夏ボラ。日々緊張することも多い多感な時期ではあるけれど、それぞれの素を出してほしい」と、温かいメッセージをいただきました。

住んでいる地域と興味・関心が同じだからこそ“また会えるかもしれない”という近すぎず遠すぎない距離感が素敵だなと思いました。夏ボラ参加者同士の出会いや横のつながりが生まれるなど、夏ボラが若い世代の居場所としても役割を果たしているのを感じました。多感な中高生にとって学校の違う友達や親ではない大人の存在は貴重なので、学校や世代という枠を超えた出会いの場としても夏ボラっていいですね！

(市民ライター 西橋友理)

社会福祉法人 東京栄和会 『うらやす和楽苑』
生活課長 足立 昌紀さん

特別養護老人ホーム「うらやす和楽苑」では、日頃、ガールスカウト千葉県第60団の皆さんがボランティア活動をされています。夏休みには地域の若者たちにもボランティアを体験してもらおうと、このプログラムを企画。受入団体7名のサポートのもと、中学生3名、高校生2名の合計5名がボランティア活動を行いました。

お年寄りの方々は、ボランティアの若者たちとお散歩をすると、いつもとは違った空気を感じていたそうです。普段は職員にお世話を「してもらおう」という受け身の姿勢になりがちですが、若者たちといると、自分たちも同じ「地域の一員」としての感覚を持って話をされていたとのこと。若者たちの言葉や笑顔からたくさんのエネルギーをいただき、お年寄りの方々からも積極的に話していた姿が印象に残ったそうです。

最初は緊張が見られたものの、職員が想像した以上に自ら積極的にお年寄りに声をかけていたという若者たち。今回のボランティア活動が、将来を考えたり、身近なお年寄りに対して自分ができることはないかと関心をもったりするきっかけとなったようです。お散歩の機会だけでなく、館内を見学する時間も設けていただいたことで、職員や関係者に接する機会が増え、良い影響があったのではないのでしょうか。

最後に足立さんから机上では学べない実際の体験の大切さについて次のように教えていただきました。「たとえば認知



お散歩に出かける前
車イスの取り扱いや注意してほしい
ことについて説明

症に対する知識は既に学校などで学んでいるかと思いますが、ボランティアはそれを実際の感覚として理解することができる場所です。ぜひ色々なボランティア活動に参加して、体験から得られるものを見つけ、自ら動ける人間になってほしいと思います。和楽苑としても、今後とも継続的に夏休みボランティアを受け入れていきたいと考えています」



今回のボランティア活動が単なる多世代交流の場としてだけでなく、お年寄りと若者たちが、互いに「地域の一員」として積極的に発信するきっかけになったというお話が印象的でした。これからも「してあげる」、「してもらおう」という関係ではない、生き生きとした交流が育まれると良いなと思います。

(市民ライター 武田 めぐ)

まちづくり講座開催のお知らせ 「もっと好きになる！」

浦安のまちづくり活動の40年そしてこれから

市制施行から40年が経過し、漁師町の名残をとどめるまちから、近代的なまちへと大きく変貌をとげた浦安。まちの移り変わりと共に、歩んできたまちづくり活動を、講師の視点を通してふりかえり、みんなでまちづくり活動のこれからについて考えます。

日時：10月28日（土）10時～12時

場所：浦安市文化会館3階 中会議室
（浦安市猫実1-1-2）

講師：チーム530(ごみゼロ)

浦安三番瀬を大切にする会
副代表 大野 伸夫さん

<事例紹介>

地域とともに「困った時はお互い様」

特定非営利活動法人たすけあいはとぽっぽ

代表 内田 香さん

定員：50名（先着順）

申込：直接、電話、Eメールにてセンターまで

団体応援ミニ講座のご案内

みなさんの活動をサポートするためにさまざまな個別ミニ講座を開催しています。「新しいリーフレットを作りたい」、「もっとSNSを活用したい」など団体のみなさんの声に対応します。ぜひご利用ください。

講座内容：センターホームページの活用法
ポスター・チラシ・リーフレット作成
動画作成
パワーポイント作成
その他、何でもご相談ください

実施方法：個別対応

日時はお申し込み時に調整

申込：電話、Eメールにてセンターまで
※1回90分まで

備品ロッカー・メールボックス・ボックス ギャラリーの利用申込みについて

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーと、郵便物などを一時保管するメールボックス（レターケース）、活動で作成された作品などを飾ることのできる透明なアクリル製のボックスを貸し出しています。

申込期間：12月1日（金）～12月20日（水）

申込方法：直接、メールにてセンターまで
メール申込の際は団体名、担当者名を記載
（抽選結果は申込みのあったメールにお知らせします）
申込多数の場合は抽選となります。

備品ロッカー

サイズ：高さ56cm×幅29cm×奥行き49cm
（鍵付き）

貸出数：27 個

利用期間：令和6年1月～6月（6ヶ月）

メールボックス

サイズ：高さ7cm×幅23cm×奥行き33cm
（鍵なし）

貸出数：42 個

利用期間：令和6年1月～12月（12ヶ月）

※定期的に郵便物を取りに来ることができる
団体に限ります。

※どちらも市民活動センター開館時間のみ利用可能。

ボックスギャラリー

サイズ：高さ30cm×幅30cm×奥行き30cm

貸出数：12個

利用期間：令和6年1月～12月（12ヶ月）

※展示物は定期的なメンテナンスをお願いします。



センター日誌より

動画と展示で団体の活動紹介をするNP0ウィーク。今年も32の団体がエントリーされました。そのうち25団体が動画でも活動紹介されます。

対面の活動が制限された2年間、それでも何かできないかと模索され、馴染みのなかったオンライン活用にも懸命に取り組まれた団体の皆さん。身に付けた動画作成やオンライン会議などのスキルは今もおおいに活動に役立っているようです。まさにピンチをチャンスに！、ですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2023年10月10日



〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

